

# ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド (確定拠出年金向け)

追加型投信／内外／株式

## 交付運用報告書

第4期（決算日 2023年9月15日）

作成対象期間：2022年9月16日～2023年9月15日

第4期末（2023年9月15日）		第4期	
基準価額	18,207円	騰落率	18.0%
純資産総額	14,851百万円	分配金合計	0円

(注) 騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド（確定拠出年金向け）」は、このたび上記のとおり決算を行いました。

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、世界各国の株式（エマージング・マーケットも含まれます。）の中で、成長性が高いと判断される企業の株式を中心に投資を行います。

当期もこれに沿った運用を行ってまいりましたので、その運用状況等について、ご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

# T.RowePrice

## ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー

ホームページ [troweprice.co.jp](https://troweprice.co.jp)  
照会先 電話番号 **03-6758-3840**

(受付時間:営業日の午前9時～午後5時)

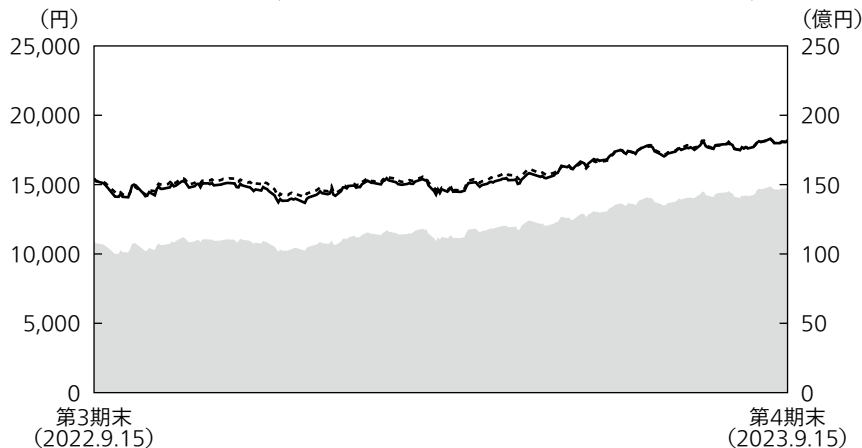
- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。書面での交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。
- 当ファンドは、信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めてお

ります。運用報告書（全体版）は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

<「運用報告書（全体版）」の閲覧・ダウンロード方法>  
上記ホームページアドレスにアクセス ➡ 「ファンド情報」を選択 ➡ 「ファンド一覧」表内の当ファンド名を選択 ➡ 「運用報告書（全体版）」のリンクを選択

## 1.運用経過

### ■基準価額等の推移（2022年9月16日～2023年9月15日）



第4期首： 15,428円  
 第4期末： 18,207円  
 （既払分配金0円（税引前））  
 騰落率： 18.0%  
 （分配金再投資ベース）

■ 純資産総額 (右軸) — 基準価額 (左軸) — 分配金再投資基準価額 (左軸) ---- 参考指数 (左軸)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。
- (注5) 当ファンドにはベンチマークはありません。参考指数は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（税引前配当込み、円ベース）であり、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しています。

### ■基準価額の主な変動要因

(主なプラス要因)

- ・イーライリリー（米国、ヘルスケア）、エヌビディア（米国、情報技術）、メタ・プラットフォームズ（米国、コミュニケーション・サービス）などの組入銘柄の株価が上昇したこと。
- ・期を通じて、株式市場全般が上昇したこと。
- ・期を通じて、海外主要通貨が円に対して上昇したこと。

(主なマイナス要因)

- ・ウェスタン・アライアンス・バンコプやバンク・オブ・アメリカなどの米国の金融銘柄や、ニュートリエン（カナダ、素材）などの組入銘柄の株価が下落したこと。

## ■1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	(2022年9月16日 ～2023年9月15日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	169円	1.078%	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は15,716円です。
(投信会社)	(112)	(0.715)	投信会社分は、ファンド運用の指図、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	( 52)	(0.330)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	( 5)	(0.033)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	11	0.072	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(株式)	( 11)	(0.072)	
(投資信託証券)	( 0)	(0.001)	
(c) 有価証券取引税	0	0.000	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	( 0)	(0.000)	
(d) その他費用	12	0.075	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 3)	(0.018)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用・印刷費用等)	( 9)	(0.057)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用や有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成に係る費用、その他信託事務の処理等に要する諸費用等
合計	192	1.225	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

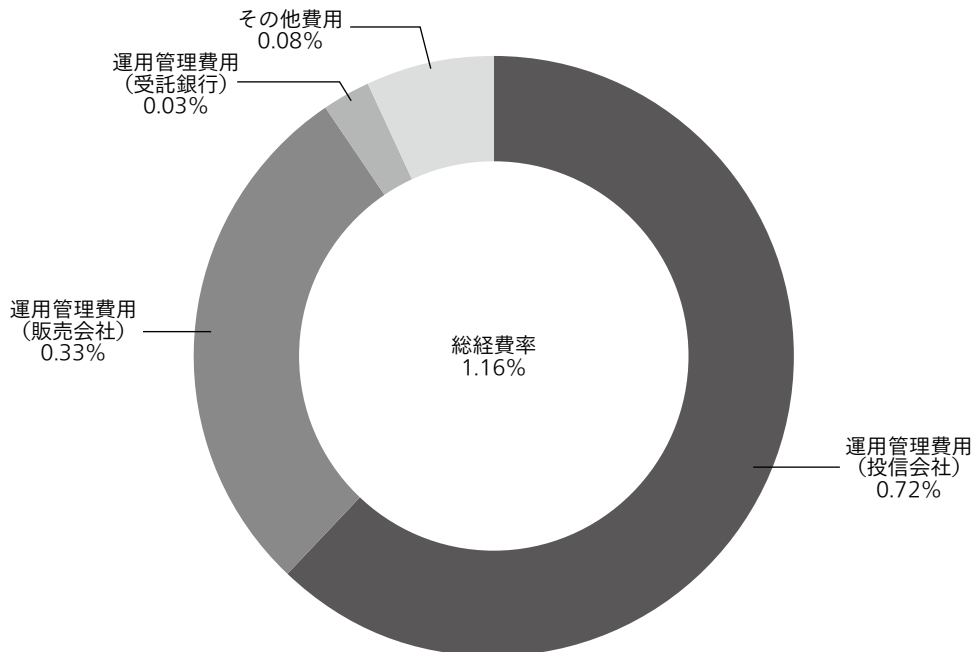
(注2) 金額欄は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

（参考情報）

■総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.16%です。

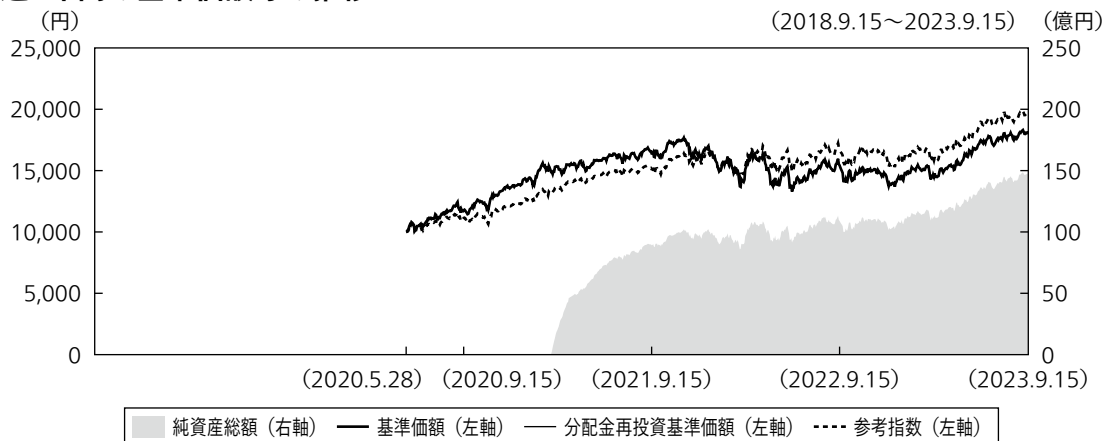


(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

**最近5年間の基準価額等の推移**


- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 当ファンドの設定日は2020年5月28日です。
- (注4) 参考指数は、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（税引前配当込み、円ベース）であり、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しています。

	2020年5月28日 (設定日)	2020年9月15日 決算日	2021年9月15日 決算日	2022年9月15日 決算日	2023年9月15日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	10,000	11,775	16,396	15,428	18,207
期間分配金合計 (税引前) (円)	-	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	-	17.8	39.2	△5.9	18.0
参考指数騰落率 (%)	-	11.4	35.7	10.7	18.6
純資産総額 (百万円)	1	1	8,913	10,895	14,851

(注) 騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。

## ■投資環境

### （株式市場）

当期の世界株式市場は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（税引前配当込み、現地通貨ベース）でみて上昇しました。中央銀行にあたる米連邦準備制度理事会（FRB）が大幅な利上げを行うことへの警戒感から、期初は下落しましたが、企業の決算・業績見通しが概ね堅調であったことが好感されて2022年10月に上昇に転じ、以降は、インフレの減速を受けた早期利上げ終了への期待から、市場は期末まで上昇基調を維持しました。2023年3月には、米国の地方銀行の経営破綻を受けた金融システム不安の高まりから株式市場が調整する場面がありましたが、①人工知能（AI）をめぐる将来的な商機拡大への期待や②想定外の景気の底堅さを背景とした米国経済のソフトランディング（軟着陸）観測の高まりなどが支援材料となり、持ち直しました。ただし、期末にかけては、米国の長期金利の上昇や、欧州や中国の景気減速懸念、中国の不動産会社の債務問題への警戒感などから、やや上昇幅を削って期末を迎えました。

### （為替市場）

為替市場では海外主要通貨が円に対して上昇しました。2022年10月には一時、米ドルが150円を超えるまで上昇する場面がありましたが、①日本政府・日銀による円買い介入、②主要国の利上げ警戒感の後退と、日銀の金融緩和解除観測を背景とする金利差縮小観測などから、2023年1月まで海外主要通貨が円に対して下落しました。しかし、日銀が緩和的な金融緩和政策を維持したことから、海外主要通貨が再び円に対し上昇して期を終えました。

## ■ポートフォリオについて

当ファンドはティール・ロウ・プライス 世界厳選成長株式マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、世界各国の株式（エマージング・マーケット\*も含みます。）の中で、成長性が高いと判断される企業の株式を中心に投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を目指します。

当ファンドは、ほぼ全額をマザーファンド受益証券に投資しました。

\*エマージング・マーケットとは、経済の発展段階にある国や地域の市場を指し、新興国市場とも呼ばれます。

### <マザーファンド>

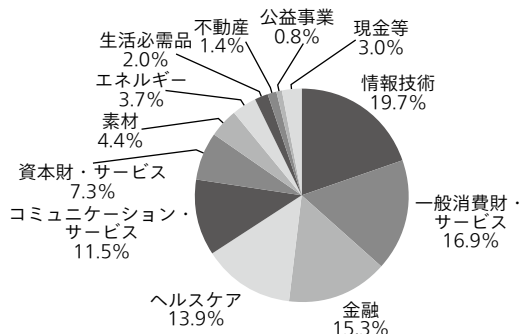
銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ<sup>\*1</sup>」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティール・ロウ・プライス<sup>\*2</sup>のアナリストによる独自の企業調査情報を活用します。

\*1ボトム・アップ・アプローチとは、アナリストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。

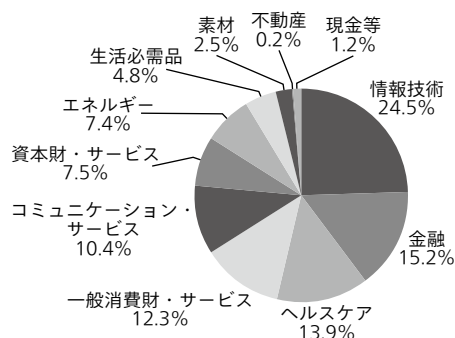
\*2委託会社およびその関連会社をいいます。

その結果、当期末におけるセクター配分は、情報技術、金融、ヘルスケア、一般消費財・サービスが上位となりました。

マザーファンドの業種別組入比率  
前期末（2022年9月15日）



当期末（2023年9月15日現在）



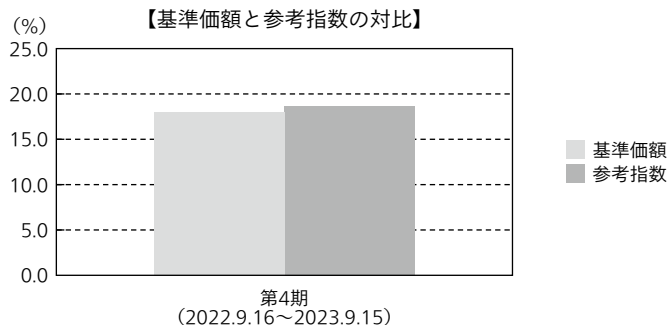
(注) ティール・ロウ・プライスは、業種分類の報告に世界産業分類基準（G I C S）におけるセクターを使用しています。世界産業分類基準（G I C S）は、MSCI Inc.（M S C I）およびStandard & Poor's Financial Services LLC（S & P）により開発された、M S C IおよびS & Pの独占的権利およびサービスマークであり、ティール・ロウ・プライスに対し、その使用が許諾されたものです。M S C I、S & P、およびG I C SまたはG I C Sによる分類の作成または編纂に関与した第三者のいずれも、かかる基準および分類（並びにこれらの使用から得られる結果）に関し、明示黙示を問わず、一切の表明保証をなさず、これらの当事者は、かかる基準および分類に関し、その新規性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性についての一切の保証を、ここに明示的に排除します。上記のいずれをも制限することなく、M S C I、S & P、それらの関係会社、およびG I C SまたはG I C Sによる分類の作成または編纂に関与した第三者は、いかなる場合においても、直接、間接、特別、懲罰的、派生的損害その他一切の損害（逸失利益を含みます。）につき、かかる損害の可能性を通知されていた場合であっても、一切の責任を負うものではありません。

個別銘柄では、アップル（米国、情報技術）の組入を増やしたほか、エヌビディア（米国、情報技術）やチャブ（米国、金融）の新規組入などを実施しました。一方、エアバス（フランス、資本財・サービス）やバーリントン・ストアーズ（米国、一般消費財・サービス）の組入除外を実施したほか、チャールズ・シュワブ（米国、金融）の組入を削減しました。

株式の組入比率は当期間を通じて高い水準を維持しました。

## ■ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



(注1) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注2) 参考指数は、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（税引前配当込み、円ベース）であり、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しています。

## ■分配金

当期の分配金は、中長期的な投資信託財産の成長を追求する観点から無分配とさせていただきます。なお、留保益につきましては信託財産内に留保し、元本部分と同一の運用を行います。

## ■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	当期
	2022年9月16日 ～2023年9月15日
当期分配金（税引前）	- 円
対基準価額比率	- %
当期の収益	- 円
当期の収益以外	- 円
翌期繰越分配対象額	8,206円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。



## 2.今後の運用方針

引き続き、マザーファンド受益証券にほぼ全額投資する方針です。

### <マザーファンド>

引き続き、世界各国の株式の中で、成長性が高いと判断される企業の株式を中心に投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。規律あるファンダメンタルズ分析に基づき、個別の成長要因を有する銘柄をボトムアップで発掘するアプローチを継続します。特定のスタイルに偏ることなく、持続的な成長が見込まれ、長期にわたり市場を上回るパフォーマンスが期待される優良企業を特定し、機動的に投資することに努めます。

## 3.お知らせ

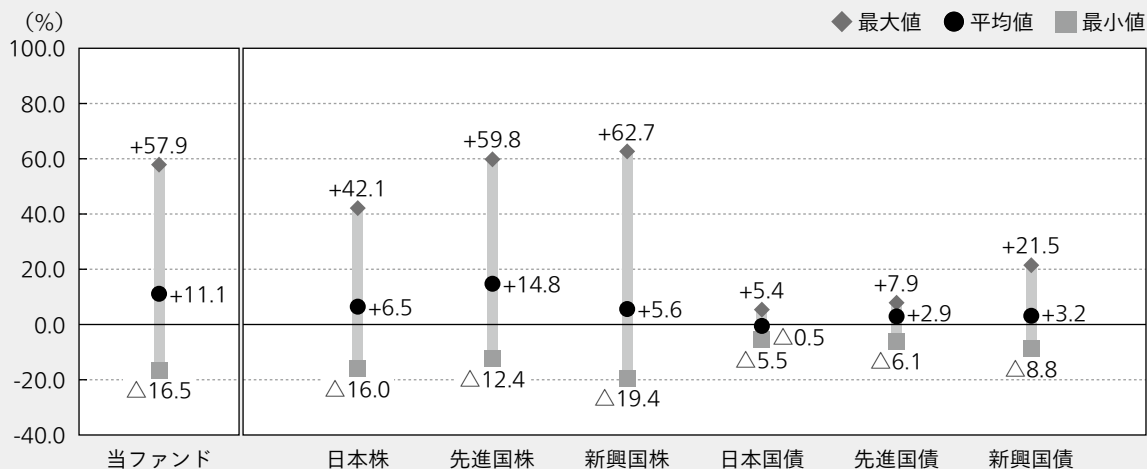
特にありません。

#### 4.当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	原則として無期限（設定日：2020年5月28日）	
運用方針	信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。	
主要投資対象	ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド （確定拠出年金向け）	以下のマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式 マザーファンド	世界各国の株式を主要投資対象とします。
運用方法	主としてマザーファンドへの投資を通じて、世界各国の株式（エマージング・マーケット*も含みます。）の中で、成長性が高いと判断される企業の株式を中心に投資を行います。 *エマージング・マーケットとは、経済の発展段階にある国や地域の市場を指し、新興国市場とも呼ばれます。	
分配方針	原則として毎計算期末（毎年9月15日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の中から基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。なお、必ず分配を行うものではありません。	

### 5.（参考情報）代表的な資産クラスとの騰落率の比較

当ファンド 2021年5月～2023年8月  
 代表的な資産クラス 2018年9月～2023年8月



(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため代表的な資産クラスとはデータの期間が異なります。

※各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……MSCI-KOKUSA I インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……NOMURA-BPI国債

先進国債……FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

※騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

## 6.当ファンドのデータ

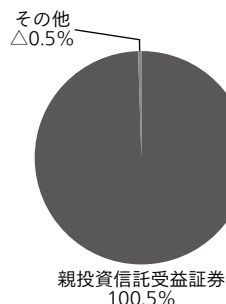
### ■当ファンドの組入資産の内容（2023年9月15日現在）

◆組入ファンド等（組入ファンド数：1ファンド）

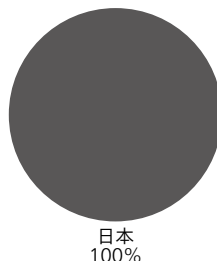
ファンド名	比率
ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式マザーファンド	100.5%

（注）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

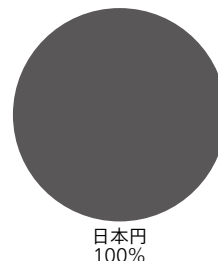
◆資産別配分



◆国・地域別配分



◆通貨別配分



（注1）国・地域別配分は、発行国・地域を表示しております。

（注2）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注3）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

### ■純資産等

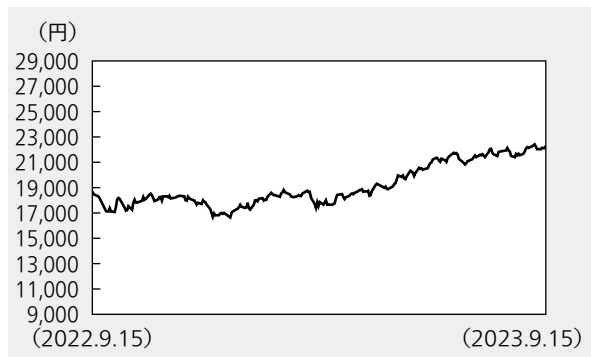
項目	第4期末
	2023年9月15日
純資産総額	14,851,688,725円
受益権総口数	8,157,255,099口
1万口当たり基準価額	18,207円

（注）当期中における追加設定元本額は2,415,059,867円、同解約元本額は1,319,864,313円です。

## 7.組入上位ファンドの概要

ティール・ロウ・プライス 世界厳選成長株式マザーファンド (計算期間 2022年9月16日～2023年9月15日)

### ◆基準価額の推移



### ◆組入上位10銘柄

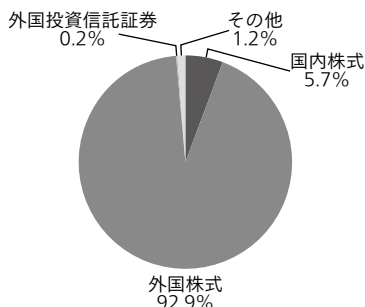
(組入銘柄数：78)

銘柄名	通貨	比率
アマゾン・ドット・コム	米ドル	5.9%
イーライリリー・アンド・カンパニー	米ドル	5.0
マイクロソフト	米ドル	4.1
エヌビディア	米ドル	3.8
アップル	米ドル	3.7
ロンドン証券取引所グループ	英ポンド	3.0
第一三共	日本円	2.6
メタ・プラットフォームズ	米ドル	2.3
アルファベット	米ドル	2.2
エクソンモービル	米ドル	2.1

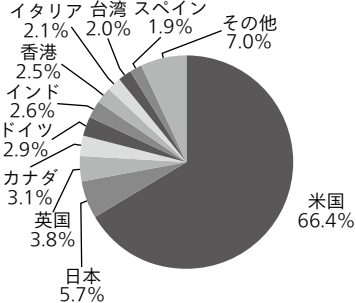
### ◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式) (投資信託証券)	14円 (14) (0)	0.073% (0.072) (0.001)
(b) 有価証券取引税 (株式)	0 (0)	0.000 (0.000)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	6 (3) (2)	0.030 (0.018) (0.012)
合計	20	0.103

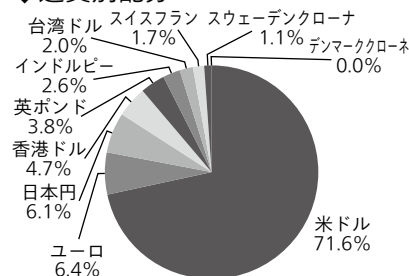
### ◆資産別配分



### ◆国・地域別配分



### ◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 項目の概要および注記については前記(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分、国・地域別配分、通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。国・地域別配分は、発行国・地域を表示しております。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 国・地域別配分は、評価対象国・地域別に上位10カ国・地域まで表示し、11位以下はその他として表示しています。

(注7) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

<「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について>

<p><b>日本株</b> 東証株価指数（TOPIX（配当込み））</p>	<p>東証株価指数（TOPIX（配当込み））は、日本の株式市場を広範に網羅し、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研に帰属します。</p>
<p><b>先進国株</b> MSCI-KOKUSA1インデックス（配当込み、円ベース）</p>	<p>MSCI-KOKUSA1インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。</p>
<p><b>新興国株</b> MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）</p>	<p>MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。</p>
<p><b>日本国債</b> NOMURA-BPI国債</p>	<p>NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&amp;コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&amp;コンサルティング株式会社に帰属します。</p>
<p><b>先進国債</b> FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）</p>	<p>FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。</p>
<p><b>新興国債</b> JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）</p>	<p>JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。</p>

<参考指数について>

MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックスは、MSCI Inc.が開発した、世界の先進国・新興国の株式を対象として算出した指数です。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。